

# 会 議 録

1. 会議名

第10回仙北地域協議会

2. 議題（公開・非公開の別）

- (1) 市への提言について（公開）
- (2) 平成20年度地域枠予算執行状況について
- (3) 仙北地域振興計画について

3. その他

4. 開催日時

平成21年3月23日（月） 午前10時より

5. 開催場所

仙北庁舎「第1会議室」

6. 傍聴人の数

0人

7. 出席したものの氏名

委員：佐藤力哉、熊谷政子、池田佐喜男、池田武、大澤隆夫、黒澤三郎、  
佐々木忠雄、佐藤昇、進藤豊和、進藤勇吉、千葉嗣助、戸澤龍悦、  
原松男、茂木保治  
(委員14名の出席、欠席4名)

副市長・部長 山王丸副市長、小松企画部長、  
仙北総合支所：佐藤支所長、小西地域振興課長、熊谷地域振興課参事、  
小林市民課長、佐藤建設課長、  
樫尾教委仙北分室長、板先健康増進センター仙北分室副主幹  
皆川地域振興課主幹、池田同課主任  
総合政策課他 北野総合政策課参事、齋藤秘書課副主幹

8. 発言内容

小西地域振興課長 | 【開会】

小林千歳委員、小松田有佳委員、小柳都委員、竹村正資委員からの  
欠席の届けを報告し、第10回仙北地域協議会の開会を宣告

**佐藤会長**

**【会長あいさつ】**

みなさん、おはようございます。大分寒くなって、また冬に逆戻りしたような天候です。寒いのは気候ばかりでなくて、本当に企業活動も寒くなっている状況です。この間、山形の米沢市に行ってきました。米沢市、寒河江市、南陽市の3市を受け持つ税理士さんと話をしたら、その税理士さんが担当している8割の会社が赤字決算だそうです。彼が危惧していたのは、8割の赤字決算の会社ですので当然行政の歳入が少なくなるので、12月に予算を立てたと思うが本当にそのとおりに予算が執行できるのかということです。県内の景気も状態が良くなって、いまの経済対策事業で銀行間の融資が多く企業の企業に出されて、一安心のところですが、事に小泉さんが総理大臣になって以来、非常に縮小気味であるというのは、みなさんご存じのとおりです。その中で、全国的にみても北海道も四国も九州にしても、いままで景気が良いときがなかったということでした。いま、景気が悪くなったといっている人は、景気が良いときを経験してきたからこそ言っているのだということ、秋田もそうですが景気が良いときを知らないところは、いまの状態が当たり前だと感じているわけです。そういう中で、我々企業や行政もそうですが、お金は出すべき処には出す、いらぬところにはびた一文出さない、ということが方法の一つだと言われていました。あちこちで景気の悪い話がある中で、何とかこの地域だけは生き残れるようにしたいものだと思います。

今日まで、みなさんのお力添えで何とか保っていますが、今後ともみなさんの意見等々をいただいて、良い地域を作っていきたいと思えます。ということで、あいさつを終わります。

**小西地域振興課長**

続きまして、山王丸副市長からお願いします。

**山王丸副市長**

**【副市長あいさつ】**

みなさん、おはようございます。初めまして、という方も何人かいらっしゃるようですけれども、市長に代わりまして地域協議会の開催にあたり一言ごあいさつ申し上げます。

就任以来、皆様にはお忙しい中、市のまちづくりの基本となります「住民との協働」の趣旨をご理解され、ご協力を賜りまして、ありがとうございます。

大仙市は、合併によりまして、地域自治区ということで各地域に地域協議会を設置していただいております。この地域協議会は、市長の諮問機関であるという役割の他に、地域予算などの

新しい制度を定めまして、それぞれの地域の課題を、それぞれの地域が自らの力で解決できるような仕組みをつくるということで、今年度は地域振興計画を作ってください、先日見せていただきましたけれども、委員の皆様には本当に活発な活動をしていただきまして感謝申し上げます。

この度、委員の皆様の任期満了に伴いまして、この地域協議会は来年度から新たなスタートを切ることになっております。委員をお引き受けいただく皆様には行政のパートナーとして今後とも引き続きご尽力いただきたいとお願いしたいと思います。

市政の運営にあたりまして、市長がいつも言うておりますが、「市政は市民のために」ということで、それが我が市の基本理念ということでもあります。情報公開や説明責任による開かれた市政の推進と共に住民のみなさんの参加により、さらに踏み込んだ「市民との協働のまちづくり」に努めてまいりたいと考えております。また、常に市民の目線に立ち、現場に足を運び、市民と一緒に汗をかくことを第一にこれまで行動してまいりました。さらに、市民のみなさんによる市政評価を取入れ、直接いろいろなご意見をいただくほかに広報などの情報手段を通じまして、行政情報を市民と共有する体制を構築することで、住民のみなさんが地域づくりに参画できる、そういう仕組みなどを大仙市全体に広げるということで、直接市政に参画していただく機会をつくる努力をしておりますし、今後とも努めていきたいと考えております。

次に、来年度当初予算について、簡単ですが少し触れさせていただきます。一般会計の予算総額は、421億1,500万円で、前年度に比べ8億4,400万円の増、率にして2.0%の増となっております。経済情勢を勘案して平成17年3月の大仙市発足以来、初めて前年度を上回る積極型予算を編成しております。特別会計予算は、23会計で224億3,000万円、企業会計予算は、2事業で19億8,000万円で、本市の予算全体では、665億3,000万円となっております。前年比較では、5億4,000万円の減、率にして0.8%の減となっております。

平成21年度は、大仙市総合計画の4年目ということでありまして、「市民と協働のまちづくり」を基本とした大仙市の基礎を築くため、新規施策や主要な継続事業に重点的に配分した予算となっております。これも常に市長が言うておりますが、特に市の最優先施策は、子育て支援と教育の充実であるということで、そういうのを主体とした予算編成作業を進めてきたところであります。

この仙北地域の事業について簡単に述べさせていただきますと、平成20年度からの継続事業といたしまして、本年10月を目指して進めております新仙北体育館建設事業や良質な水道水の安定した供給を

図るための戸地谷地区統合簡易水道事業などが計画されているところ  
であります。

また、平成20年度予算として2月補正を行なったものであります  
けれども、国の地域活性化・生活対策臨時交付金事業におきましては、  
仙北曲がり屋の茅葺き屋根補修工事や第二武道館のトイレ水洗化改修  
工事のほか道路新設改良事業などが計画されております。

地域協議会の委員の皆様を対象としました予算では、今年度と同様  
に各地域協議会委員の皆様を対象としました全体研修を開催すると共  
に先進地視察などの活動を支援する活性化事業を実施するということ  
で予定しております。

また、地域枠予算では地域の特色や独自性を活かしながら、それぞ  
れの地域課題に対応するというので、今年度と同額を措置させてお  
ります。

以上、これまでと同様、市民本位、市民主体の市政の推進に努めま  
して、大仙市の基盤を整備いたします。それによりまして、市民が安  
心して暮らせる郷土を未来に残すということを心がけて、これから市  
政運営に携わってまいりたいと考えておりますので、これまで以上  
のご理解、ご支援をお願いいたしまして、簡単ではありますがご  
挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたしま  
す。

小西地域振興課長

ありがとうございます。それでは、会議の規定により会議の進行  
につきましては会長からお願いします。

佐藤会長

それでは、会議録署名委員を指名します。池田武委員と茂木保治委  
員をお願いします。

続いて、議事に入ります。今日の資料の確認ですが、市への提言事  
項・資料1と地域枠予算執行状況2・資料2、そして地域振興計画の  
冊子です。それでは、議事の1番「市への提言事項について」を私か  
ら説明します。

黒澤委員から提言されたものですが、一応読みます。

「星宮遺跡」の出土品整理と公開宣伝について、星宮遺跡は秋田県  
内で初の水田跡遺構（推定・弥生時代）と国指定文化財と同等の遮光  
器土偶が出土された極めて希で貴重な遺跡である。また、装飾極めた  
香炉型土器・注口土器等多量の破片と共に出土している。中には天然  
のアスファルトで補修された土器も出土されたのはおよそ10年前で  
す。今は貴重な遺物が多量に出土している中で遮光器土偶のみがクロ  
ーズアップされているのが現状であります。

このような貴重な遺跡の調査は終了したとのことではありますが、次  
の点について提言いたします。

- 1, 出土品が一部払田柵総合案内所に公開展示をしているがいつまでか。その後の公開展示計画はどのようになっているか。
  - 2, 出土品はただ保管して置くだけなのか。まだまだ出土品等の整理分析が必要と思われるが如何なものか。秋田県埋蔵文化財センター勤務経験OBによる整理も可能ではないか。
  - 3, 星宮遺跡は稲作の開始期、稲作伝播の研究、稲作関連遺構や集落跡発見の期待、多様で大量の土器の出土など、大仙市として、仙北地域として貴重な歴史遺産であることから広く一般に知っていただき後世に伝える事が必要ではないか。
  - 4, 星宮遺跡は文化財指定とはなっていないが極めて重要な遺跡。遺跡訪問者への解りやすい案内（表示板、説明板など）や出土品の公開（公開場所の案内）などの心配りが必要ではないか。
  - 5, 払田柵跡、池田氏庭園そして星宮遺跡を含め「史跡の里仙北地域」として広くアピールすべきではないか。
- と、というような提言がございます。

#### 黒澤委員

ちょっと補足させていただきます。このことはすでに皆さんご存じのことと思いますが、何故このような提言をするに至ったかを話してみたいと思います。去年の11月16日の広報だいせんの表紙に遮光器土偶が掲載され、12月の広報には、それに対する反応が市民の方々から寄せられておりました。それを見ましても、非常に市民の方々が関心を持っているということが分かりました。これは平成9年あたりに調査を完了したのですが、その後、1998年の全国の文化財の新発見考古学速報というのがありまして、遮光器土偶が全国の博物館7・8箇所を回りまして、東北は盛岡の博物館、南は九州まで行ってきて、東京の国立博物館にも出張展示されております。それにドイツまでにも行ってきているという話です。そういうことで遮光器土偶が全国はおろか世界にも知られてる状況です。

これが調査報告書の現物ですが、小面積の処からほぼ完成品の遺物が沢山出ています。この土器は、縄文晩期の土器だそうで、そのすぐ傍に水田の跡も発見されています。そのように貴重な水田跡で、秋田県では最初のものだと言われました。

青森では田舎館の垂柳遺跡が東北でも有名なわけですが、現在でもその水田の区画を残しているわけでありまして、そして独立した資料館を造って観覧に供しているわけです。

それに比べましても非常に重要な遺跡であるにもかかわらず、どこにあるか、よく聞かれます。広報やインターネットで知ったとかで話も聞かれます。行ってみただけ、どこにあるか分からなかったということもありまして、地元の人たちでも聞かれる人たちがいます。そのため標柱1つ、案内板1つあるわけではないので、それで今回提案し

佐藤会長

煙山文化財保護課  
長

たわけです。

いろいろ事業があるでしょうが、私はお金とかの問題ではなくて、何とかして、もっと知られるようになってもらいたいものだと、それから場所なんかははっきりと表示してもらいたいということで提案したわけです。

ありがとうございました。いま黒澤委員から説明してもらいました。これについて、文化財保護課から答弁をお願いします。

仙北地域協議会の皆様には日頃から文化財の保存の活動についてご指導ご助言ご支援をいただいております、ありがとうございます。提案の星宮遺跡は、それこそいま黒澤委員からご説明があったとおり、弥生時代の水田跡や遮光器土偶、縄文時代の日常的な遺物が大量に出土しております、貴重な歴史遺産として広く県内外に知られているところでもあります。提案が5項目ほどありますけれども、一部重複するところがあるかも知れませんが、1番からお答えしてまいります。

出土品の展示については、一部ですが20年度に払田柵案内所の企画展示として紹介しておりました。この後の予定は、21年度も引き続き4月から11月まで払田柵案内所に展示していこうと思っております。21年度は遮光器土偶を特別展示する予定です。遮光器土偶の場合は長期間というわけにはいきませんので、短期間でありますけれども、5月頃には特別展示として予定しております。1月以降になりますが、大曲図書館の市民サロン展示室での企画展示も予定しているところでもあります。仙北地域の施設に常時公開展示していれば一番良いわけですが、その点についてはまだ常時展示できる場所を確保しておりませんので、今後の検討課題だと思っております。

次に、出土品の整理分析についてです。平成8年から平成10年の3カ年において、発掘調査しております。その成果は報告書にまとめられておまして、先ほど黒澤委員が皆様に示して見せてくれたとおりで、まず1つそこで完成したと捉えております。研究者等の要望については、資料提供や資料公開も随時行なっているのが現状です。今後、再度の分析調査というのは予定にはなっておりません。いま他にもいろいろな遺跡が見つかっておりますので、その関連性とかで再度整理が必要になってくることもあるかと思われれます。その時には、改めて必要度に応じて再度整理していくことも考えられます。

この貴重な遺跡を内外に広く周知させて、それを伝承していくということについての周知に関しましては、遮光器土偶がドイツまで行ったということもありまして、本当に貴重な刊行物に写真が載っております。それから子ども達の副読本にも全国的に写真提供されて星宮遺跡は随分と広く周知されているのではないかと思います。特に仙北地

域の皆様はご存じですが、大仙市内の広域にわたってお知らせするには、20年度は市民文化財巡りをゼロ予算事業として行なっております。こちらの庁舎で遮光器土偶を見ていただいて星宮遺跡の説明等も行なっております。このことにつきましては、21年度以降も機会がありましたら同じように実施していきたいと思っております。

それから説明板につきましては大仙市に合併して非常に多くの遺跡等を抱えております。まず指定物件については、順次進めていく予定になっておりますが、まだほとんど手は着けられておりません。星宮遺跡の遮光器土偶はじめ出土品については、市の指定になっておりますが遺跡そのものは指定になっておりません。地元の要望等に基づいて、この後計画化していきたいと思っております。

それから払田柵跡、池田氏庭園と併せて星宮遺跡を史跡の里仙北地域として広くアピールして、ご提言のようになるべきであると思えますし、大仙市を合わせて仙北地域だけでなく広域的に、この辺はアピールしていこうということを予定しておりますので、この後実施していきたいと思えます。ただ、このことは担当課だけでなく、それこそ地域の皆様の協力を必要とするところでもありますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。以上であります。

佐藤会長

ありがとうございます。まず、1番については、展示は今年度も21年度も企画展示していくということで、来年度は11月まで展示して、5月には遮光器土偶の特別公開をしていくということです。また、常時展示も今後の検討課題としていくということです。

2番については、星宮遺跡の成果品が過去において出ているということで、再調査の予定はないということでした。ただ、他の遺跡との関連性があれば、その部分については再調査するということだそうです。3番もこのような形のようなようです。4番については、地元の要望次第では計画にするというようなことのようにです。看板については、今後文化財保護課との協議になるかと思えます。5番については、大仙市には他にも遺跡があるということで、それらを含めてアピールということを考えていくということの説明でした。

黒澤委員

説明板のことについて文化財保護課長さんから説明がありましたが、大仙市には沢山の遺跡があるために1個所だけに立てる訳にはいかないという趣旨のお話しでした。仙北地域として払田の柵は仙北地域にあるものですから、仙北地域にあるものとして今盛んと市民と協調して地域を盛りたてていくという時期にあって、何とかして地域の力で、市民と協調して世界に誇るべき地域を表示したらということをお願いした訳です。

佐藤会長

そのことについて、地域で看板を作って、それを立てるということ  
を文化財保護課では、どのように考えているでしょうか。

煙山文化財保護課  
長

いまのお話しは、私共としては大変嬉しいことですが、仙北地域で  
星宮遺跡がそういうことになりますと、他の地域でもそういう話にな  
ってってしまうのか、そこが心配なところですが、それでも星宮遺跡  
だけ立てていいのかというと、私がこういう話をしているのか分かり  
ませんが、委員の皆様から出る話だと思いますが、いま会長から求め  
られた意見としては、非常に嬉しいことなのですが、何と答えたらい  
いのか判断に迷ってしまいます。

佐藤会長

いま旧市町村ごとに遺跡があるわけですが、地域の事業とかでやら  
れるところはやると思います。例えば、お祭りにしてみても中仙町と  
か太田町とかで祭り等やっているし、あるいは、協和でも薪能とかを  
やっているわけです。地域協議会の予算の中で、各地域で独自に行な  
われている事業で、活発な地域とそうでない地域と格差は当然出てく  
ると思います。我々の地域として重要な課題があるので、看板を1つ  
くらい立てて周知したいというほどの小さな希望なのです。各地域で  
考えて看板を立てることについては、文化財保護課から了解していた  
だければ可能なのではないかなというのが、我々の意見です。

煙山文化財保護課  
長

本当にありがとうございます。具体的になったときは、文化財保護  
課と協議しながら進めていただきたいと思います。いま文化財保護課  
で立てている標柱は指定文化財としての標柱です。大仙市には470  
個所の遺跡があります。ですので、看板等の表示の仕方を工夫してい  
ただければありがたいです。私どもで建てているものと同じものでな  
くて、史跡の里づくりの標柱または表示板とか、内容を変えていただ  
ければありがたいと思います。

佐藤会長

やり方次第では、前向きに出来るということですね。

煙山文化財保護課  
長

はい、そうです。

佐々木委員

前回のこの会で、この件で発言されたように記憶していますが、例  
えば、その出土した物が、何処へ行けば見られるか、何処に展示して  
ありますか、とか関係者が聞かれた場合に、今の段階では展示してい  
ないような答えしか出来ないわけです。例えば、ふれあい文化センタ  
ーの一角に全部ではなくても展示して、あそこにいけば一部は見られ  
ますよ、というように答えられるようになればというご意見を出され



た方がおったわけです。そのようなことも保護課では考えられますか、考えられませんか。

佐藤会長

いま佐々木委員から発掘物について、ふれ文等で常時展示が出来ないかというご意見ですが、その点はいかがですか。

煙山文化財保護課  
長

企画展示については、払田柵案内所とこの後11月以降ですけれども図書館の市民サロンでやることをお話ししましたが、これはあくまでも企画展示ということで、私どもが管理をしながらということになっております。ふれあい文化センターでの常時展示となりますと、指定文化財であるということと、管理が大変だということ、展示される側のふれあい文化センターと綿密な計画を立てなければなりません。企画展示は出来ると思いますが、常設に関しましては私どもの宿題にさせていただきたいと思っております。

佐藤会長

よろしいですか佐々木委員。

佐々木委員

はい。

池田（佐）委員

いま佐々木委員が話されたことは、前回私が提案しました。例えば、払田柵の案内人などをしておりますと、小学生とか一般の方は、そんなことは言いませんが、ある程度関心がある人達からすれば、星宮遺跡も有名だけれども、何処へ行ったら見ることが出来るものかということをおっしゃいますが、何処かは分からないので行っても意味がない、ということをお話しております。その方々からすれば、そこに形があるかは分からないが、その場所へ行ってみたいという声があります。私達は山形県に視察に行ったことがあります、そこでもある程度有名な遺跡ですが、全然姿形がなくて、農道のところにただ看板だけが立っております、こういう遺跡だという説明文がありました。私も考えましたが、出来ればこれも地域の皆さんと関連することでもありますし、条件があると思っておりますが、その場所に行ったときに看板があって、それには謂われが書いてあって、そして一部についてはどこそこに行けば展示して見ることが出来ます、という表示板があれば、親切でないかなと感じました。

千葉委員

私は、払田の住民でありまして、払田柵の夏まつりや冬まつりに10何年間も参画してきましたが、副市長さんにお尋ねというよりは、希望なのですが、言うなれば、いま話しされておることは、文化財としての趣味なり研究なりしている方々には、あまり手を掛けさせたくないのですが、いま話題になっていることは、観光の次元で見に来る

人などいろいろあります。文化財保護課から説明があったことでは、観光の次元では絶対一致しないと思います。どちらかに重点をおかないといけないと考えています。仙北地域は、池田氏庭園や星宮遺跡もプラスになってきましたので、払田柵だけではなくなってきました。そういうことになりますと、もう少しこれからの展望というものが必要になってくると思います。ただ、観光は待ったがききません。九州や京都など各方面から来ます。しかし、その日一日だけなのです。そうしたことで、観光の次元を文化財保護課に任せっきりでなくて、何か検討していかないと、いつも同じ事の繰り返しになってしまいます。観光で大仙市が生きていくという1つのテーマもありますので、そこら辺を統一していかねばならないと考えています。結論はでないと思いますが、どうお考えでしょうか。

#### 山王丸副市長

感想の範囲は出ないと思いますが、千葉さんがおっしゃったことはもっともだと思います。黙っていると、今のままで時間が過ぎることになってしまいます。先ほどのお話では、遺跡の表示板が山形県にあったというお話でした。遺物を掘り出した場所と掘り出した遺物のそれぞれの管理の仕方は違うなと思いました。私は、初めて星宮遺跡という名前を知りました。この土偶は、勿論見たことはありますけれども、つながった知識として頭になかったものでしたから。これは、ある意味地域の特色です。さっき挨拶しました地域の特色を活かして地域がどういう方向を目指すかというものを自力で考える場として地域協議会があるわけですので、そういう点では前向きなお話し合いをしていただいております。市として、どうやれるか、どこまで応えきれるか、という話もあり、文化財保護課としては持ち分の範囲でかなり精一杯の回答をさせていただいていると言えるかと思います。ただ、大仙市全体で考えますと、文化財保護という点では地元の方もいっちゃって、そのご協力もあって他の地域よりも進んでいる地域ではないかなと感じております。この1年、私が見て感じた観光についての取組みは非常に遅れていると思います。観光は、よその方と交流する場でもあり、いくつかの目標の中に交流というの大きな目標としてあります。いろいろな人を受け入れるということと、それから同じ秋田の地域内の人との交流と両方あるということです。その交流という1つのポイントは観光ということになります。観光にどういう取組みの仕方をするか、取組み方を間違ったら場所を壊されるという危険性もある。両刃の剣であったりする訳です。そこは非常に難しいと思います。いまおっしゃったように、そういうことに趣味のない人は、例えば行きずりの人であっても、考古学ということについては、何となくロマンを感じるのではないかと思います。星宮遺跡などは名前からして素敵です。全然知らないで来たけど、こういう看板があっ

て、昔の物でこういう物が出ている。例えば、ここに行けば見られるな、という繋がりを持たせるという形で、一步一步少しずつ、どれが正しい方向かは、まだ分かりませんが、これから観光の視点を入れつつ、今ある、これは大きな財産だと思いますので、財産を少しずつ出し渋りながら外にも見せて、人の足をこちらに呼び込む材料にする。そのために市としても、専門家集団もおりますので、総合計画4年目で、正に今後に向けて検討する年でもあります。21年度1年かけて、その方向性を出したいと思います。その時に、文化財保護だけではなくて、もっと広い視点でも観光を含めて、どうやってこの後大仙市がもうちょっと外に開けた形で存在できるかということを検討して方向性を出していくということで、今日は持ち帰らせていただきます。

できれば地域協議会で看板を立てることがいいのかどうか、ということも検討させてください。私は、いいのではないかと思います。ただどういう意匠にするのか、そこら辺は文化財の担当と協議していただいて、今でも観光客がいらっしゃるのに、来年まで待てというのではなくて、今来た人が少しでも疑問を解消できるような形のものとして、ある程度あとでも変えることができる程度のもので標柱を出してもらふ工夫はできるのではないかと思います。いますぐにどうこうというのは、市の予算の中では大変厳しい世の中でもありますので、いまこれをやりますと言いたいのですが、皆様のご協力を得て、もしかして手作りでも、何かの工夫をして、これも専門家の力添えをいただきながら解りやすい解説を付けて、まず場所を示す、中に出せるのがあったら企画展示でも、それは予算が無くてもできるかもしれませんので、工夫して多くやれるようにして、来年度以降は少し具体的に予算の裏付けを持ちながら方向性を出していくようにさせていただければ、ありがたいと思います。

佐藤会長

ありがとうございました。山王丸副市長から大変前向きな意見が生まれて、期待したいと思います。

進藤（豊）委員

いずれ地域の心配りという意味が大切だと感じました。それは方法論で、ある程度解決できるのではないかと思います。1つは、まず看板は、ここが発掘の場所ですというように来た人が解ればいいと思いますし、いまは写真技術も良くなってきていますので、現物を展示できないとすれば、いわゆる写真展示だけでも対応可能ではないかと思っています。現物を見たい方は、いつその期間展示で見させていただくようにすることで、方法論で考えていけば、ある程度解決できていくのではないかと思います。

黒澤委員

最後に、お願いがあります。広報にある遮光器土偶は、大変いいの

ですが、残念ながら寸法が書いてありません。もし、今後こうした写真を使われるときには、原寸の寸法を書いて頂ければありがたいと思います。

熊谷副課長

私達が今日市への提言とした意味は、出来るか出来ないかは別としまして、遮光器土偶だけが指定されて一人歩きするので、星宮遺跡もそんな形に出来ないかということです。それから常設でないにしても展示出来ないかということが、私達の希望です。市への提言となると、それが叶うかどうかは、プロの方たちの説明がこのあとあると思います。それといま皆さんがお話になりましたいろいろな形で、私達、仙北住民が出来ることを、これから働きかけていかなければいけないことと分けられると思ひまして、住民としてはとても誇りですので、国の指定も含めて、星宮遺跡もせめて市の指定になって、もっともっと皆さんに見せるチャンスを増やしたいというようなところから出たことです。この後も私達は検討して行って、いろんな事を目に見える形でしていきたいと思ひます。

進藤（勇）委員

私も門外漢です。市の指定文化財になっているところがありますが、文化財には市の指定、県の指定、国の指定といろいろあると思ひます。払田の柵とか、中仙の鏡は、国の指定でありますけれども、土偶や星宮遺跡がそれぐらいの価値のあるものであるのか、県や国の指定を受けるように運動すれば出来る可能性があるものなのか、それを少し教えていただきたいと思ひます。

山崎文化財保護課  
主幹

ただいまの質問にありました件ですが、星宮遺跡から出土した遮光器土偶につきましては、希にみる形状であるとの評価をいただいております。ドイツで展示されたときも日本国内から出品された土偶2品のうちの1品として選ばれております。そういった意味では、非常に価値の高いものと位置づけをしております。全体的な課題としましては星宮遺跡の位置づけですとか、遮光器土偶の全市的な位置づけの中で、どれぐらいのポジションを占めるかという形のを、これから検証させていただいたうえで、市指定から県指定なりという手順を踏んでまいりたいと考えております。

進藤（勇）委員

ありがとうございました。よろしく申し上げます。

佐藤会長

副市長から前向きな答弁がございましたので、この件につきましては、これで締めさせていただきますが、よろしいですか。

委員全員

異議なし

佐藤会長	<p>続いて、平成20年度地域枠予算の執行状況について、皆川主幹から説明をお願いします。</p>
皆川主幹	<p>【平成20年度地域枠予算執行状況2の資料により説明】</p>
佐藤会長	<p>はい、ありがとうございました。これについて、委員の皆さん何かございますか。</p> <p>それでは、副市長、これを見ての感想があればお願いいたします。</p>
山王丸副市長	<p>割りとハードが多いように見えます。民間活動によるものもありますが、細かいところの撤去ですとか、そういうところがちょっと多いかなと思いました。</p> <p>テングス病は、この地域全部ですか。これは、前からですか。はじめて聞きますが。</p>
黒澤委員	<p>昔からです。</p>
佐藤会長	<p>桜の木には、どこでもあります。花が咲かないで葉っぱだけになる病気です。</p>
山王丸副市長	<p>この地域の特徴だと思いますが、古文書研究会の活動とかが営々と続けていただいているのがあります。ふれ文で寺内たけしさんのコンサートにも参加しましたけれども、音楽や芸術文化というものに対する皆さんの熱意というよりは「熱い熱」を感じました。そういうのは、なかなか秋田市では感じなかったものですから、是非それを大事にしてくださいと思います。</p>
佐藤会長	<p>ありがとうございます。この件については、これでよろしいでしょうか。</p> <p>では、続いて、仙北地域振興計画について、私から説明させていただきます。</p> <p>まず、この地域振興計画を作るに当たって、我々地域協議会のメンバーが何回か集まって協議しました。さきほど地域づくり講座というものも開催しまして、並行しまして、これを作成した訳です。各委員からのブレインストーミングを利用して、意見を分野ごとに出してもらって、それを仕分けして、各分野毎に整理し、難儀して作りました。以下、読みます。</p> <p>【仙北地域振計画により会長が説明】</p>

このことについて、副市長から意見あるいは感想等があれば伺いたいと思います。

山王丸副市長

すばらしいですね。これは分析して作ったからだと思いますが、具体例まで出していただいて、これを仕分けするには難儀されたのではないかと率直に思いました。これからこういう計画が出ていくわけですので、じゃあ、これを如何に具体的に行動に移すかというところでありまして、行政が進める取組みというものが書かれているものもありますし、市民の皆さんが進める取組み、行政と一緒に進める取組みが、それぞれありますので、市役所の職員も、これを読んで、如何に協働なら協働の分野で、きちんと我々の役割を果たすべきかということ認識する努力が必要だと思いました。折角作っていただいても描いた餅にならないように、是非、我々もがんばって取組みたいと思います。

ひとつだけ、地域枠予算で課題としてきた現状の中に、2つの課題が出ています。「主体的な地域づくりに対する住民の意識改革と行政の支援策」と「地域リーダーの育成をどのようにすすめていくか」という、このことの現状はどうですか。例えば、活気ある地域リーダーを作り出していく課題というふうに皆さん認識されていますが、実際に地域でいる方々にどういう取組みを、リーダー育成の分野でされているか聞かせていただければ、ありがたいです。

佐藤会長

リーダーということに限った訳ではありませんが、地域づくり講座を5回に分けてやりました。地域を限定して呼んだこともありますが、仙北地域全体に呼びかけたこともあります。板見内の地域とか、あるいは沼田の地域の方から集まってもらい、地域づくり講座の中でもブレインストーミング等を行って地域の課題等を出すようなこともしました。ただ、集まる人が、なかなか若い人たちが集まらない。40以上とか、50以上の方がほとんどです。従って、若い人たちが如何に地域づくりの中に参画してくれるかが、この地域の課題です。おそらく他の地域でも同じような状況があるのではないかと思います。本当に若い人たちが少ないです。我々もいま集まっているメンバーも半ば強制的に集められて何とかやっていますが、もうちょっと幅広い中で、この協議会の中にも参加してくれれば、もっと若い人たちの育成になるのではないかと考えます。

山王丸副市長

40代以上の方が参加されるケースもあるのですか。大体、各地域何人ぐらいでやられているのですか。

佐藤会長

17・8人は集まっていたと思います。ただ、全域から集まらない

ということで、市の職員から呼びかけていただいて出てきてもらったということもあります。あるいは、一般で周知すると、積極的に参加してくれる方も中にはおります。

山王丸副市長

地域のことを自分の問題として、みんなが捉えるようになれば、違ってくるのにと普段考えています。自立している自治会と自立していない自治会という、ここが問題なのだというのですが、自立していないというのは、どういう点で特に自立していないと評価されているのでしょうか。

佐藤会長

各自治会があつて、自治会内でまとまりがある自治会では、お祭りや行事などでは、集まって相談してやられている地域で、活気ある自治会として考えられますが、ほとんど行政からの連絡をそのまま伝えるような自治会もありますので、その辺の差が次第に同じ仙北地域内でも地域内格差が出ているような感じがします。例えば、地域枠予算の3番の地域緊急対応ということでのゴミとか、あるいは会館の駐車場の整備をしようという提言がある地域は、比較的地域にまとまりがあつてやられている地域なのですが、そういうものが全然連絡がない地域もございますので、その辺が課題なのかなと思います。

山王丸副市長

そういう地域格差があるとすればリーダーとなる方を適切に捕まえられるどうか、引っ張っていける方がいるかいないかでは相当の違いがあるという気がしますが、細々と様々な分野の課題のみならず、実際にどう取り組むべきかまで作っていただきました。これを、これから具体的に実践に移して、手を組んでいきたいと思いました。

佐藤会長

どうも、ありがとうございました。21年度から地域の連合会の立ち上げが予定しておりますので、それを立ち上げると従来よりも密接に各地域で活発な事業を行うことができるのではないかと思いますし、また、その中で事業を行うことによって若い世代のスキルアップやら地域に埋もれている人たちを発掘できればと思います。まず、21年度自治会連合会の立ち上げが一つのキーとして役立ってくれるのではないかと思います。

山王丸副市長

がんばっていただきたいと思います。一つだけ、いま小学校区が地域開放という形で、地域の方々のご協力により子供の教育を学校の先生だけでなく地元にはいろいろな先達がいらっしゃるわけですので、プロの方もいらっしゃるでしょうし、そういう方々に学校経営に係わっていただく取組みを教育委員会でやろうという気になっていきますので、この地域では高梨小学校だそうです。そういうところに地域

の皆さんが入れるようになりますと、その中で子供達に少しずつ地域との付き合い方みたいなものを教えていっていただくと徐々に地域というものと自分とを理解する子供達が増えてくるのかなあと、そこを私は期待しています。

佐藤会長

はい、分かりました。過去においても地域学習ということで、例えば、佐々木委員とかは子供達に授業をやったこともありますし、私も1回出させられたこともあります。そういう意味で為になる機会がいまでもありました。また、いま公民館では子供達に土日の授業もやっていますし、その多くの子供達や親の方たちが参加してやっているキッズクラブ事業もあります。仙北地域だけでなく大曲地域とか、あるいは中仙地域の方も子供がふれ文に集まって、一緒に遊んだりしている実態もあります。

山王丸副市長

景気は悪いといいますが、ひとつ、ひとつ、実践していくことで、明るい未来はその先にあるのではないかと前向きにいきたいものだと思います。

佐藤会長

ありがとうございました。特に、ご意見がある方はおりますか。それでは、仙北地域振興計画は、以上で閉じます。

それでは、次第6番のその他について事務局からお願いします。

熊谷参事

今回、皆様は4年の任期ということですが、引き続き15名の方々から地域協議会の委員をやっていただくことになっておりますので、よろしくをお願いします。

それから退職される職員が3名おりますので、それぞれご挨拶をお願いします。

佐藤支所長

1年間という短い間でしたが、皆様の温かい御支援ありがとうございました。今後とも、よろしくお願いいいたします。

小西地域振興課長

まずは、大変お世話になりました、ありがとうございました。一応、地元住民ですので、この後もいろいろとお世話なるかと思っておりますので、よろしく、お願いいいたします。

鈴木農林振興課長

長い間、お世話になりました。ありがとうございました。お陰様で、大過なく過ごさせていただきました。今日から集落座談会が始まります。農業情勢はさっぱり良くならないような気がします、良い支援事業も今年から21年度から展開されますので、是非チャレンジしていただきますようお願い申し上げます。長い間、どうもありがとう



佐藤会長

ございました。

長い間ごくろさまでした。

それでは、これで第10回仙北地域協議会を終了します。ありがとうございました。

【午前11時43分閉会】

この会議録の記載が真正であることを保証するためここに署名、捺印する。

仙北地域協議会署名委員

-----

仙北地域協議会署名委員

-----